

大崎小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・「自ら培った三つの力を発揮し、社会をよりよくしようとする子どもの育成ー学びをつなぎ 地域・社会とつなげ 未来につながる ESD の実践を通してー」をテーマに、総合的な学習の時間や各教科の時間を使って、ESD 活動を進めている。
- ・『㊦笑顔あふれる㊧世界のために㊨できることからはじめよう』を合言葉に、「自分たちにできること」を追究していくことで、持続可能な社会の担い手の育成を図る。
- ・カリキュラム、授業、地域のつながりを生かした学びの工夫をすることで、社会のさまざまな問題を自分ごととして捉え、自分の可能性を最大限に生かしながら社会に貢献するための基礎づくりを行う。

・活動の実際

① 4 年生

梅田川きらきら大作戦 ～大崎のまち 大崎の生き物のために～

大崎校区は、海や川など豊かな自然に囲まれている。4 年生は春の自然観察で梅田川に出かけたとき、そこで生き生きと動くカニやヤドカリ、水中を浮遊するクラゲなどの様子を夢中になって観察していた。一方で、周りにペットボトルや使用後の釣り道具などのごみが散乱していることに気づき、ごみ拾いをした子もいた。

市の下水道出前講座のときに、水質の検査について学んだ子どもたちは、梅田川の水質の COD を調べたところ、予想以上に汚れていることを知った。「自分たちにできることはないだろうか」と考え、梅田川きらきら大作戦を考えた。そして、冬に再度梅田川を含め校区のごみ拾いを行った。また、自分たちが調べた梅田川のごみの実態や、ごみを減らす方法などを、2 月に行われる学習発表会で地域に広めていく予定でいる。



② 3 年生

見て見て！大崎のシャキショキキャベツ

これまで毎年 3 年生が大崎の名物のキャベツを育てていることを見てきた子どもたちは、自分たちも今年もっと大きくておいしいキャベツを育てたいという思いをもっていた。2 学期にキャベツ栽培を始めることになった。農家のかたもキャベツは苗から定植していることを知り、今年は苗を植えていった。

次に子どもたちは、「虫がついたり、病気になったりしたらどうしたらよいか」、「水をあげるタイミングや量はどのくらいか」という疑問をもち、一人調べをした後に、農業ボランティアさんにインタビューを行った。農家さんの工夫や苦勞、喜びなどを知った子どもたちは、話し合いの結果、自分たちの力でキャベツを育てていくことに決めた。毎日、欠かさずにキャベツの葉に虫がついていないか調べ、自然由来の消毒を利用して、大切に育てていった。

11 月、愛情をいっぱい受け、大きなおいしいシャキショキキャベツを収穫できた。

